**おおさかＱネット「特殊詐欺被害の防止」に関するアンケート　分析結果概要**

* **実施日**　　平成29年2月8日（火）
* **サンプル数**　　大阪府民1,246サンプル

①65歳以上の府内高齢者世帯（単独世帯、二人以上世帯）の男女

②60歳未満の人と同居する65歳以上の府内高齢者男女

③65歳以上の高齢者と同居していない40歳以上60歳未満の府内男女



**１．調査目的**

大阪府では、振り込め詐欺などの「特殊詐欺」の被害が深刻化しており、特に今年（平成28年）は、１１月末時点で被害件数、被害総額ともに過去最悪だった昨年を上回っている状況。

このような中、特に被害の多い65歳以上の高齢者を中心にした本調査を通して、日常の生活実態や特殊詐欺に対する意識、行動等を明らかにし、被害の未然防止に効果的な取組方策の構築に生かす。

**２．主な調査（検証）事項**

（１）高齢者のみ世帯は、そうでない世帯に比べて、被害実態の認識が低く、自己防衛対策を講じている人も少ない

（２）高齢者のみ世帯は、そうでない世帯に比べて、身近な相談相手が少なく、同居人等からの注意喚起も少ない

（３）高齢者のみ世帯は、そうでない世帯に比べて、啓発広報の浸透度が低い

（４）自治会に加入している世帯は、そうでない世帯に比べ、啓発広報の浸透度が高く、自己防衛意識も高い

**３．主な調査（検証）結果**

（１）世帯構成別の特殊詐欺の被害状況の認識並びに未然防止のための自己防衛対策の取組状況

* 大阪の特殊詐欺における被害状況の事実認識（近年増加傾向）に、世帯構成別で差異はない。
* 日頃から特殊詐欺の被害にあわないような取組みや心構えに関して、65歳以上のみ世帯の高齢者と60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者の間に差はなかった。なお、高齢者と同居していない人と比べると、両者とも未然防止の取組みや心構えができている人が多い。

（２）世帯構成別の身近な相談相手の有無並びに家族等からの注意喚起

* 特殊詐欺の被害にあいそうになった場合の身近な相談相手の有無に関して、65歳以上のみ世帯の高齢者と60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者の間に差はなかった。なお、高齢者と同居していない人と比べると、両者とも身近な相談相手のいる人が多い。
* 家族等から特殊詐欺の注意を日常的に促されているかに関しては、65歳以上のみ世帯の高齢者と60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者の間に差はなかった。なお、高齢者と同居していない人と比べると、両者とも日常的に注意を促されている人が多い。

（３）世帯構成別の啓発広報の浸透度合い

* 警察や行政が実施する様々な特殊詐欺被害の防止のための啓発等取組みについて、65歳以上のみ世帯の高齢者と60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者では、啓発広報の浸透度合いに大きな差はなかった。なお、65歳以上の高齢者と同居していない人は、高齢者に比べて浸透度合いが低い。

（４）自治会への加入状況と啓発広報の浸透度合いや自己防衛意識

* 自治会への加入状況と啓発広報の浸透度合いについては、自治会への加入者の方が、未加入者よりも啓発広報の浸透度合いが高い。
* 日頃から特殊詐欺の被害にあわないような取組みや心構えについては、自治会への加入者、未加入者で差異はない。

（５）65歳以上高齢者の特殊詐欺被害の未然防止のための取組みの実践状況

* 特殊詐欺の被害にあいそうになった経験がある人や、日頃から家族等から特殊詐欺に注意するよう言われている人は、そうでない人に比べて、被害にあわないような取組みや心構えをしている人が多い。
* 普段の買い物での支払い方法や通信販売の利用頻度、携帯電話やスマートフォンの所持や使用頻度の違いによって、日頃から被害にあわないような取組みや心構えをしているかどうかに差異はない。

（注）

１．「おおさかＱネット」の回答者は、民間調査会社のインターネットユーザーであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。そのため、アンケート調査の「単純集計（参考）」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。

２．割合を百分率で表示する場合は、小数点第２位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。

３．図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

４．図表中の上段数値は人数（ｎ）、下段数値は割合（％）を示す。

５．図表下にカイ２乗検定の値（ｐ値）を記載しているものは、信頼度5%水準で統計上の有意差がみられたもの。

６．複数回答のクロス集計については、カイ２乗検定を行っていない。

**１．世帯構成別の特殊詐欺の被害状況の認識並びに未然防止のための自己防衛対策の取組状況等について**

* 1. 世帯構成別の特殊詐欺の被害状況に対する認識（図表1-1）
* 近年の大阪府の特殊詐欺の被害状況が増加又は減少のどちらの傾向にあるか聞いたところ、「減少傾向」と誤った認識を示した人は、全体の2.8％とほとんどいなかった。
* これを世帯構成別でみたところ、割合に若干の差はあるもの、統計的に有意な差は見られなかった。

　注）検証に際して、Ｑ１で「どちらとも言えない（n=133）」「分からない(n=193)」は、集計から除いた。

【図表1-1】





* 1. 世帯構成別の特殊詐欺被害の未然防止のための取組みの実践状況（図表1-2）
* 日頃から特殊詐欺の被害にあわないような取組みや心構えをしているか聞いたところ、世帯構成別では、65歳以上のみ世帯の高齢者と60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者は、高齢者と同居していない人に比べて、未然防止の取組みや心構えができている人が多い結果であった。
* なお、65歳以上のみ世帯の高齢者と60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者では、前者の方がやや取組等に積極的な人が多いものの、統計的に有意な差は見られなかった。

【図表1-2】



①③p値=0.00000

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　②④p値=0.00000



* 1. 世帯構成別の相談相手の有無（図表1-3）
* 特殊詐欺の被害にあいそうになった場合に、身近に相談できる相手がいるか聞いたところ、65歳以上のみ世帯の高齢者や60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者は、そういった高齢者と同居していない人に比べて、身近に相談できる相手がいる人が多い結果であった。
* なお、65歳以上のみ世帯の高齢者と60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者では、後者の方が相談できる相手がいる人がやや多いものの、統計的に有意な差は見られなかった。

【図表1-3】





1-4　世帯構成別の注意喚起の頻度（図表1-4）

* 日頃、家族から特殊詐欺には注意するよう言われることがあるかと聞いたところ、65歳以上のみ世帯の高齢者や60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者は、そういった高齢者と同居していない人に比べて、注意を受ける人が多い結果であった。
* なお、65歳以上のみ世帯の高齢者と60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者では、後者の方が注意を受ける人がやや多いものの、統計的に有意な差は見られなかった。

【図表1-4】





**２．世帯構成別の啓発広報の浸透度合いについて（図表2）**

* 警察や行政が実施する様々な特殊詐欺被害の防止のための啓発等取組みについて、記憶に残っているもの全てを回答してもらい、世帯構成別でその平均回答個数に違いがあるかを見たところ、65歳以上のみ世帯の高齢者が2.35個、60歳未満の人と同居する65歳以上の高齢者が2.46個であり、啓発広報の浸透度合いに大きな差は見られなかった。なお、記憶に残っている啓発内容等に関しても同様の傾向にあった。
* 一方、65歳以上の高齢者と同居していない人が記憶に残っている事項の平均回答個数は、1.95となっており、高齢者に比べてその浸透度合いは低かった。

【図表2】



**３．自治会への加入状況と啓発広報の浸透度合いや自己防衛意識について**

3-1　自治会への加入状況と啓発広報の浸透度（図表3-1）

* 警察や行政が実施する様々な特殊詐欺被害の防止のための啓発等取組みについて、記憶に残っているもの全てを回答してもらい、自治会への加入未加入別でその平均回答個数に違いがあるかを見たところ、自治会への加入者は2.40個、未加入者は2.10個であり、自治会加入者の方が啓発広報の浸透度合いが高い結果であった。なお、記憶に残っている啓発内容等に関しては大きな違いはなかった。

【図表3-1】



3-2　自治会への加入状況と自己防衛意識（図表3-2）

* 自治会への加入状況で日頃から特殊詐欺の被害にあわないような取組みや心構えに違いがあるか検証したところ、自治会への加入者は、未加入者比べて取組み等している人がやや多かったものの、統計的に有意な差は見られなかった。

【図表3-2】





**４．65歳以上高齢者の特殊詐欺被害の未然防止のための取組みの実践状況について**

4-1　特殊詐欺被害にあいそうになった経験の有無と未然防止のための取組みの実践状況の関係

（図表4-1）

* 特殊詐欺の被害にあいそうになったことがある人は、そうでない人に比べて、日頃から被害にあわないような取組みや心構えをしている人が多いことが分かった。

4-2　注意喚起を受ける頻度と未然防止のための取組みの実践状況の関係（図表4-2）

* 日頃、家族等から特殊詐欺に注意するよう言われている人は、そうでない人に比べて、日頃から被害にあわないような取組みや心構えをしている人が多いことが分かった。

4-3　買い物の支払い手段と未然防止のための取組みの実践状況の関係（図表4-3）

* 普段の買い物での支払い方法の違いによって、日頃から被害にあわないような取組みや心構えをしているかどうかに、統計的な有意差は認できなかった。

4-4　通信販売の利用頻度と未然防止のための取組みの実践状況の関係（図表4-4）

* 通信販売の利用頻度の違いによって、日頃から被害にあわないような取組みや心構えをしているかどうかに、統計的な有意差は確認できなかった。

4-5　携帯等の使用状況と未然防止のための取組みの実践状況の関係（図表4-5）

* 携帯電話やスマートフォンの所持や使用頻度の違いによって、日頃から被害にあわないような取組みや心構えをしているかどうかに、統計的な有意差は確認できなかった。

【図表4-1】





【図表4-2】





【図表4-3】





【図表4-4】





【図表4-5】





【参考】4-6　職業別の未然防止のための取組みの実践状況（図表4-6）

【図表4-6】



